

外部評価委員からの改善提案・意見と次年度普及指導計画への反映

周南農林水産事務所農業部（周南市須金地区の果樹産地における園地継承支援）

令和6年3月 周南農林水産事務所農業部

| 活動全般に関する意見や次年度普及指導計画等への改善提案 | 外部委員評価に対する次年度普及指導計画等への改善策等 |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・経営基盤強化対策 ・持続可能な安定経営 | <p>今回の継承支援活動は、施設や農機などの経営資産の一部の継承ではなく、果樹・果樹棚、農機・農具、販売情報・顧客、従業員・パートなど、経営資産のほぼ全てを継承する「経営継承」の支援活動であり、果樹などの永年性作物の農業経営を継承する場合に多いものです。</p> <p>「経営継承」では、譲渡側に一定の経営基盤があることが継承の成立には重要な要素であるため、譲渡側の経営実績が一定レベル以上であること、果樹棚の補修や優良品種への転換などの将来に向けた適切な投資が行われていることも重要なポイントであり、これを意識した普及指導活動を重ねてきました。</p> <p>次年度普及指導計画では、残りの継承候補園（2園）の継承支援や、今回の継承成立園（1園）の技術向上支援を行う計画ですが、ご指摘の「経営基盤強化」や「持続可能な安定経営」の視点を持ちながら活動していきます。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・50年以上に渡る須金地域での果樹栽培の高齢化による廃園等の危機感に着目し、園の継承を支援活動して結果に繋がったことは素晴らしいと思う。観光果樹地として認知度が低下してきた原因は園主の高齢化だけのことなのか、果樹面積や園主の年齢等は表記してあるが、年度別の生産量や需要の実態なども発表の中にあると、危機感に取り組む要因が更に伝わりやすいのではないかとも思った。また、継承後の新旧園主との関わりについて技術的なアドバイスなどを受けるような日常があるのかちょっと知りたいと思った。 | <p>生産組合では県内・広島県にCMを流したりSNSやネットを利用して若い世代へのPRにも努めています。観光果樹園としてのおもてなしにも心掛けており、現在では観光果樹産地として一定の認知を得ており、生産された果物は、観光・直売・贈答などで販売（完売）されています。しかし、産地の若返りや産地規模の維持が難しくなれば、今後、認知度の低下に繋がりがかねないとの危機感を持ち今回の継承支援活動を実施したところです。次年度の普及指導計画においても継承支援を行っていきます。</p> <p>今回の継承支援では、園主の体調不良による園地継承であったため、旧園主が技術的なアドバイスを行う機会はありませんでしたが、今後の継承においてはこのような機会を積極的に設けたいと考えています。なお、生産組合による技術的なアドバイス、農業部の個別指導、地域の果樹団体（県なし同志会、県巨峰会）の技術研修会なども活用し、早期の技術力向上・経営確立を支援していきます。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・過去の継承での問題点を整理した上で取組の方向性を示した。 ・特に生産組合としての取組に位置付けたことで、組合全体で取り組む認識が生まれ、産地規模の維持にもつながっている。 ・事業継承は他の産地でも課題であり、取組方法として良い事例となっている。 | <p>過去の事例に学ぶことや経験・ノウハウを蓄積することは、円滑な継承だけでなく継承後の経営安定にも役立ちます。また、今回の継承支援活動を通じて生産組合の関わりが強く・太くなったことから、今後の継承支援の充実につながると考えています。</p> <p>次年度普及指導計画においては継承候補園（2園）を対象に継承支援を行いますが、生産組合・市・JAなどと連携して取り組んでいきます。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携が各自の役割が明確化されうまく取れている。今後も、この連携を緊密に進めていって欲しい。 ・県内の他産地の先進的な取組事例に対し、視察や意見交換会等を実施して取組内容をブラッシュアップしていく。 | <p>現在、園地継承候補園が2園あるため、次年度普及指導計画では、生産組合・関係機関等と連携して園地情報の整理、就農希望者の確保、両者の仲立ち等の取組を進めて参ります。</p> <p>また、他産地の先進事例の収集や他産地との意見交換等により、園地継承活動の充実・強化を図っていきます。</p> |

外部評価委員からの改善提案・意見と次年度普及指導計画への反映

山口農林水産事務所農業部（防府市におけるタマネギの生産振興）

令和6年3月 山口農林水産事務所農業部

| 活動全般に関する意見や次年度普及指導計画等への改善提案 | 外部委員評価に対する次年度普及指導計画等への改善策等 |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 品質の強化対策 販売戦略 法人間連携による更なる面積拡大 | <p>品質強化については、乾燥施設を整備したことにより、腐敗病の抑制を期待しています。また、加工用向けに大玉栽培を実証することとしています。</p> <p>販売戦略については農協が主体となって加工業者と調整することとしており、選果が簡素化できるよう令和6年産出荷に向け調整することとしています。</p> <p>法人間連携による作業の効率化により、更なる面積拡大を目指し、課題整理、その解決を図っていくこととしています。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> タマネギ生産拡大に向けて取り組む段階で幹事会が連携して法人を取りまとめ結果に繋げた点は素晴らしい。成果の上だった取り組み、逆に上手くいかなかった問題点をきちんと拾い上げ中心となって改善に取り組む活動は学ぶべき点が多かった。 一番驚いたのは、それぞれ異なる法人の特徴を知り得て役割分担もさせ、その法人たちが協力し合いながら機械化一巻体系に結び付けた点。3法人の全体スケジュール表は分かりやすかった。 この成果は波及性が大きいと感じた。 | <p>目標達成に向け、来年度も活動してまいります。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> 法人を対象として機械化一環体系により栽培における省力化を整備したことによりたまねぎ栽培のなかった法人が栽培を開始したこと、また栽培で生じた課題に対して反省会を通じて協議・共有して法人間での作業連携に繋げ、作付け拡大につながった。 今後の生産拡大と他の地域での振興への支援に期待する。 | <p>目標達成に向け、来年度も活動してまいります。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> 法人間連携はヒト・モノ・カネを相互補完する重要な役割があり、今後も新たな連携に取り組み拡大して欲しい。このためにも曖昧になりがちなルールを明確化しておくことが重要。 令和6年産タマネギからの稼働の新設備による効果に期待。これにより、他への波及効果が期待できる。 | <p>令和6年産から稼働する選果調製施設を有効に活用できるよう支援してまいります。</p> <p>他地域へも波及できるよう課題整理・解決に取り組めます。</p> |

外部評価委員からの改善提案・意見と次年度普及指導計画への反映

美祢農林水産事務所農業部（美祢地域における麦産地の継続に向けた取組）

令和6年3月 美祢農林水産事務所農業部

| 活動全般に関する意見や次年度普及指導計画等への改善提案 | 外部委員評価に対する次年度普及指導計画等への改善策等 |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 裸麦の需要拡大に向け、各関係機関と連携を図り広域な販路開拓 小麦の品質均一化、たんぱく含有率の向上対策 | <p>美祢市はだか麦需要拡大プロジェクトの活動については、今後も市内での需要拡大と認知向上を図るとともに県域組織（やまぐちの農林水産物需要拡大推進協議会）とも連携し、市外に向けた活動にも取り組んでまいります。</p> <p>今回栽培した「ふくさやか」については、タンパク含有率9.7%以上となっており、品質として高タンパク含有率を求められる品種ではありませんが、今後たんぱく含有率を求められる品種導入が行われた場合においても、基本技術の確実な実施による品質均一化を目指した指導の徹底を行っていきたいと考えています。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> 裸麦の需要が減少していることに着目し、小麦への転換に向けて活動し結果に繋げつつあることは素晴らしいと思う。なぜ裸麦が減少しているのか、裸麦の地域を含めた認知活動が今後どこまで続けられるのか、農家の声を含め現状をもう少し知りたい。加工品作りのための販売先確保についても農家による意欲がどの程度なのか。 裸麦生産と小麦生産での違い、一番は農家にとって何が優先なのか今後の目標を明確に知りたいと思った。 | <p>裸麦の栽培抑制については、主な加工品である味噌等の需要低迷と暖冬傾向による裸麦の単収向上で生産量が増加したことが大きな原因と考えています。生産者の裸麦の需要拡大に対する意識は高くなく、また、裸麦でなければいけないと考えているのではなく、作りやすく収量が多い品種であればその方がよいと考えています。裸麦は、収穫時期が早く梅雨の前に収穫できますが、小麦は、梅雨時期の収穫となることから降雨が多い年は収穫困難になる場合があるものの収量は多いなど一長一短です。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> 麦種転換による麦の作付け面積の維持と、裸麦の需要拡大のため加工業者や農業高校による加工品開発の実施を並行して行い、産地の維持につなげている。今後の活動、支援に期待する。 裸麦で商品化した加工品が美祢市から県域に広がり、更なる需要につながることを期待する。 | <p>今後も麦の需要動向に応じて麦種転換について柔軟に対応していくとともに、裸麦の需要拡大に向けて美祢市だけに捉われず県域組織（やまぐちの農林水産物需要拡大推進協議会）と連携し、更なる需要拡大に取り組んでまいります。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> 裸麦の需要量が少ないことが取組の原因となっている。広域的な需要拡大の取組は将来的ではなく喫緊の課題であるため、人口の少ない美祢市だけではなく、他市へ活動を広げていく必要がある。既に交渉されているかもしれないが、山口県販売協力店連携協議会加盟のアルク、ゆめタウン、フジグラン等に積極的に働きかけていくことも必要。 | <p>現在、県域での需要拡大については、県域組織（やまぐちの農林水産物需要拡大推進協議会）が味噌加工業者や県内学校給食への押麦などの取組を行っており、今後は、それらの活動と連携、役割分担を行いながら効果的な活動を行ってまいります。商品開発し、供給体制が確立できる商品については、販売協力店での取り扱いも検討していきたいと考えています。</p> |

外部評価委員からの改善提案・意見と次年度普及指導計画への反映

長門農林水産事務所農業部（集落営農法人及びJA生産部会に求められる多様な担い手の確保・育成～集落営農法人を中心とした担い手確保～）

令和6年3月 長門農林水産事務所農業部

| 活動全般に関する意見や次年度普及指導計画等への改善提案 | 外部委員評価に対する次年度普及指導計画等への改善策等 |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・県集落営農法人連携協議会との共有化 ・担い手を受け入れるには、法人の経営強化、財務の健全化 | <p>担い手を受け入れる法人側の経営力強化及び財務の健全化はとても大切だと思いますので、来期の重要課題に位置付けて活動に取り組んで参ります。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・管内の集落営農法人の労力不足の対策に地元の農業高校生に農大生を繋げる流れを作ったことは素晴らしいと思う。農高生は農業を学校生活で学ぶものの経験の少ない中で卒業後すぐに就農することは少ない。農大生との交流で農大に進みたい、先で安心して就農できるという目標を持つことのできる良い流れだと思う。 ・今後の成果に期待したい。 | <p>担い手が安心して法人に就業し活躍できる環境を整えられるよう、関係機関とも連携しながら活動に取り組んで参ります。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・新規就業者確保のために管内法人への就業ルートを構築するにあたり、長門法人協より直接働きかける機会をつくって意識を高めた良い事例であり、他の地域への波及を期待する。 ・農大生の法人就業に繋がるものと期待する。 | <p>長門法人協と連携して就業ルートを構築・実践できるよう活動に取り組んで参ります。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・農大ルートは県内の他法人も求人を行っており、待遇面だけでなく魅力ある職場環境作りも協議会挙げて取り組んでいく必要がある。 ・HPを立ち上げて、できるだけ多くの情報を公開しミスマッチを防ぐとともに、若手就農者の声等も発信し、イメージ向上に繋げていく。 | <p>新規就業希望者に選んでもらえる職場環境を整えられるよう、関係機関とも連携しながら活動に取り組んで参ります。</p> |